黒耀石研究センター活動報告 2010

2010年度　黒耀石研究センターの活動記録

Ⅰ　研究活動

1. 調査研究

明治大学黒耀石研究センター（明治大学研究・知財戦略機構付属研究施設）は，2010年度新領域創成型研究「ヒト―資源環境系に占める黒曜石の採掘活動と古環境解析」にもとづく調査研究を実施した。

新領域創成型研究とは，科研費等の外部資金獲得の準備に資する学内競争的研究費である。センターは2011年度の外部資金獲得準備のため「ヒト―資源環境系に占める黒曜石の採掘活動と古環境解析」を申請し，8月に採択を受けた。研究計画は，以下の通り（計画調書より抜粋）。

【具体的目的】 本研究は，先史時代に多様に利用された，黒曜石（火山ガラス）の原産地開発のあり方と，利用時期の古環境の復元を目的とする。対象地域を信州の黒曜石原産地域に絞り込み，先史時代の人類が黒曜石の採掘活動をおこなっていた時系列変化に対応した当時の古環境，特に採掘地点付近の古植生の復元をおこなう。気候変動の影響を受けやすい海抜1,400メートル付近をターゲットにする。

【全体構想への位置づけ】 ヒト―資源環境系に占める黒曜石の文化資源的意味を統合的に探ることを全体構想として計画し，科研申請をおこなう予定である。黒曜石利用の考古学的解明と産地分析研究を結ぶ共通の背景の復元と年代測定の試みにより，堅固な基礎と時間軸をあたえる可能性を切り開く。

研究組織は，研究代表者を小野　昭センター長とし，研究分担者に杉原重夫文学部教授，会田　進副センター長，島田和高博物館学芸員（センター員）が参画している。

本研究費による2010年度の活動概要は以下の通り。

⑴　長野県中部高地における黒曜石原産地の踏査

8月6日～8月9日にかけて，新領域創成型研究にもとづく黒曜石原産地踏査を実施した。調査チームは，小野　昭センター長，会田　進副センター長，島田和高博物館学芸員（センター員），橋詰　潤特別嘱託（センター員），堤　隆センター員（浅間縄文ミュージアム），及川穣センター員（東京国立博物館），山科　哲センター員（尖石縄文考古館）で構成した。霧ヶ峰山帯の一角にある和田峠において，工業用パーライト原料として採掘が進められている現代の黒曜石採掘坑道，八島湿原に近い星ヶ台，八ヶ岳の麦草峠・冷山などの黒曜石原産地や関連する湿地部の踏査を行った。今回の踏査は，2011年度以降に考古学・地質学的な調査・研究を行うフィールドの選定を目的の一つとしており，黒曜石原産地近辺での古環境と先史人類活動の復元に資する有望な候補地を見つけることができた。

⑵　東京都神津島における黒曜石原産地の踏査

8月27日～8月30日にかけて神津島黒曜石原産地と島内の先史時代遺跡の踏査を実施した。センターからは，小野　昭センター長，島田和高博物館学芸員（センター員），堤　隆センター員（浅間縄文ミュージアム）が参加し，国立歴史民俗博物館から春成秀爾氏（同名誉教授），工藤雄一郎氏（同助教）が参加した。2度にわたる恩馳島（おんばせじま：神津島沖合いに浮かぶ岩礁。黒曜石の産出地として著名）への上陸の企ては，熱帯低気圧の影響で波が荒く，果たせなかったが，神津島に所在する長浜，砂糠崎，天上山の各産出地を踏査し，黒曜石の産出状況を観察した。また，神津島空港に近い丘陵で，黒曜石製の剥片を発見し，年代・時期は不明だが新たな遺跡の所在についての手がかりを得ることが出来た。

⑶　鷹山盆地における古環境ボーリング調査

9月2日，史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡のある鷹山黒

曜石原産地遺跡群において，古環境復元（花粉分析・年代測定）を目的とした手動式シンウォールサンプラーによるボーリング調査を実施した。更新世に遡る可能性のある試料は得られなかったが，花粉分析をとおして鷹山遺跡群で行われていた縄文時代黒曜石採掘活動に関連する完新世の古環境分析結果が得られることが期待される。

2.「史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡」整備に伴う発掘調査

発掘調査は9月～10月にかけて第1号採掘址で行われた。調査は長和町が主体となり，センターが協力したほか，各大学の考古学研究室に参加者を募集して調査は実施された。センターからは会田　進副センター長，矢島國雄明治大学文学部教授（調査団長，センター員），橋詰　潤特別嘱託（センター員）が調査に参加した。2007年から再開された昨年までの調査では，無数に重なり合う採掘排土に一定のまとまりを持った単位（「層群」）が存在することが明らかとなり，層群の境界面を平面的に追跡することによって当時（縄文時代）の地表面が検出されるなどといった成果が得られている。本年の調査は，再開された第1号採掘址の調査の4年目にあたり，昨年検出された縄文時代の地表面の広がりの確認や，さらに古い時期の地表面の検出を目指しながら，時期決定が難しい採掘活動の展開と変遷を解明することを目的に進められた。その結果，当時の採掘活動の痕跡である竪坑が新たに発見されたほか，多数の黒曜石原石や黒曜石製の石器，黒曜石を加工する際に用いられたハンマーや作業台となった多孔台石（たこうだいいし）などが発見された。さらに本年は発掘区と周辺の地形を立体的に復元することを目的に，3Dレーザー計測を実施した。こうした最新の記録方法によって，従来は平面的に図示されることの多かった遺跡とその周辺地形を3次元情報として提示することが可能になると期待される。発掘期間中には第6回「黒曜石ふるさと祭り」の一環として遺跡説明会が行われたほか，海外からの招聘研究者（ドボシ博士，クズミン博士）による視察なども設けることができた。

Ⅱ　研究交流

1. 海外研究者よる特別講演会および長和町民大学の開催

センターの研究事業には，主要な目的の一つに黒曜石研究の国際ネットワーク構築が挙げられている。2010年度は，ヤロスラフ・クズミン博士（ロシア科学アカデミーシベリア支部地質鉱物学研究所）とヴィオラ・ドボシ博士（ハンガリー国立博物館）をセンターに招聘し，黒曜石と石器時代研究に関する学術交流を実施した。両氏は，9月8日～9月15日の間，明治大学および鷹山黒曜石原産地遺跡群とセンターのある長和町に滞在した。来日中，9月11日には研究者を対象とした「黒耀石研究センター特別講演会」をリバティタワーで開催した。また長和町では，センターと縄文時代黒曜石採掘鉱山の視察を行い，明治大学と長和町が共同で主催している長和町民大学で，海外の黒曜石研究について町民を対象とした講演を行った。

ドボシ氏とセンターは，ハンガリー国立博物館で展開している，“Lithotheca”と呼ばれる石器石材の体系的なコレクション（個々の試料には，採取地や理化学的分析等の詳細なデータが付与されている）とその研究活用について意見交換した。その後，明治大学文化財分析施設からハンガリー国立博物館に日本列島の代表的な黒曜石原石サンプルが採取地情報とともに提供され，Lithothecaのコレクションに付け加えられた。クズミン氏とは，次年度以降，ロシア各地における黒曜石原産地の視察を行うことなど，具体的な研究交流について協議した。

2011年3月現在，ロシア共和国科学アカデミー極東支部地質学研究所との間で，2011年秋予定の沿海州地方における黒曜石共同研究調査を実施するため，明治大学と地質学研究所間の研究協定締結の準備を進めている。

【明治大学黒耀石研究センター特別講演会】
日　時：2010年9月11日（土）　13：00～16：00
会　場：明治大学リバティタワー1021教室
演　題：ヴィオラ・ドボシ氏「ハンガリーとその隣接

地域における旧石器時代の黒曜石利用」“Obsidian use in the Palaeolithic in Hungary and adjoining area”

ヤロスラフ・クズミン氏「上部更新世後半のロシア極東および隣接の北東アジアにおける黒曜石利用のパターン」“The patterns of obsidian exploitation in the late Upper Pleistocene of the Russian Far East and neighbouring Northeast Asia”

2. 信州黒曜石フォーラム 2010 の開催

センターは「信州黒曜石フォーラム実行委員会」の一員として，長野県旧石器文化研究交流会および野尻湖ナウマンゾウ博物館とともに「信州黒曜石フォーラム 2010・第 20 回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──」を共同開催した。信州黒曜石フォーラムは，2009 年から実施されており，長野県及び関連市町村が推進してきた黒曜石原産地と遺跡の調査・研究並びに保存・活用の実績を踏まえ，信州霧ヶ峰・八ヶ岳の黒曜石原産地と周辺の地域における石器時代の黒曜石利用を様々な学問領域から包括的に議論することを通して，黒曜石の生成と原産地の成り立ち，黒曜石利用を巡る人とモノの動き，黒曜石から見た石器時代史と社会の復元などのテーマに取り組む。

主催者である「信州黒曜石フォーラム実行委員会」には，岡谷市教育委員会，諏訪市教育委員会，茅野市教育委員会，佐久穂町教育委員会，長和町教育委員会，下諏訪町教育委員会，長野県教育委員会，長野県立歴史館，長野県埋蔵文化財センター，長野県考古学会，明治大学博物館，明治大学黒耀石研究センターが参加している。近い将来には，信州産黒曜石がもたらされた遠隔地をフィールドとする研究者や北海道，九州各地の黒曜石研究者とも連携し，石器時代とその研究における黒曜石の重要性をアピールする。また，黒曜石フォーラムは，より広域にわたる黒曜石原産地と周辺遺跡群の保存・活用に資する様々な提言を行うと同時に，市民と研究者に開かれた自由な議論の場として機能する。

【信州黒曜石フォーラム 2010・第 20 回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──】

主　催：信州黒曜石フォーラム実行委員会　長野県旧石器文化研究交流会　野尻湖ナウマンゾウ博物館

日　程：2010 年 10 月 2 日（土）　13：00〜16：30
　　2010 年 10 月 3 日（日）　9：30〜13：00

会　場：信濃町総合会館

事務局：明治大学黒耀石研究センター

10 月 2 日（土）　司会：島田和高（明治大学博物館）

基調報告 1：野尻湖遺跡群における黒曜石産地推定分析データの集成と解析　谷　和隆（長野県埋蔵文化財センター）

基調報告 2：信州産黒曜石原産地における原石産状と石材獲得のあり方について　大竹憲昭（長野県埋蔵文化財センター）

基調報告 3：栃木県高原山黒曜石原産地における原石産状と人類遺跡　国武貞克（奈良文化財研究所）

基調報告 4：諏訪湖底曽根遺跡と黒曜石原産地をめぐる地域文化の形成過程　及川　穣（東京国立博物館）

基調報告 5：縄文草創期前半から後半にかけての石器石材利用について ── 野尻湖周辺及び新潟県域の事例から ──　橋詰　潤（明治大学黒耀石研究センター）

基調報告 6：石器製作行動と黒曜石の流通 ── 関東地方の石器群の状況から考える ──
小菅将夫（岩宿博物館）

特別展　「オノの石，ヤリの石」（野尻湖ナウマンゾウ博物館）見学

10 月 3 日（日）　司会：大竹憲昭

講演会　石材の流通 ── 見えないものをどう捉えるか
小野　昭（明治大学黒耀石研究センター）

基調報告 7：旧石器時代における石斧の石材原産地・採集地の推定　中村由克（野尻湖ナウマ

ンゾウ博物館）

基調報告８：旧石器時代初頭における石斧の形態と機能　須藤隆司（佐久市教育委員会）

総合討論（司会：島田和高・大竹憲昭）

3. 韓国ソウル大学放射性炭素年代測定 AMS 研究所との研究交流

10 月 16 日，アジア旧石器協会韓国大会終了の翌日に，小野　昭センター長，杉原重夫文学部教授，島田和高博物館学芸員（センター員）が，韓国ソウル大学を訪問し，同大学で核物理学を専門としている金鍾賛教授，考古学研究者の洪美瑛氏と産地推定分析や黒曜石原産地について意見交換を行った。金鍾賛教授は，九州腰岳産黒曜石による石器が，朝鮮半島南部の旧石器時代遺跡から出土したことを PIXE 分析により報告（J. C. Kim *et al.* 2007）した研究者である。金鍾賛教授のラボで加速器など分析機器の説明を受けた後，明治大学文化財分析施設による黒曜石産地推定分析が杉原教授から紹介され，昼食をはさんで白頭山産とされる黒曜石の産状と特徴，韓国における新たな原産地の探索，日本列島における原産地の分布と黒曜石利用の初源などについてディスカッションを行った。金鍾賛教授とは，九州産黒曜石の朝鮮半島における同定分析は，地理的情報など必要な情報が付与された確かな試料に基づいて行われるべきだ，という点で意見が一致し，今後明治大学からも試料が提供されることになった。

4. ロシア・ハバロフスク郷土誌博物館との研究交流，国際ネットワークの構築

小野　昭センター長と会田　進副センター長は，11 月 5 日～11 月 8 日の日程で，ロシア・ハバロフスク郷土誌博物館を訪問し，同博物館と黒耀石研究センターとの研究交流についてイーゴリ・ヤコブレビッチ・シェフカムード博士と協議した。また，橋詰　潤センター特別嘱託（センター員）と首都大学東京大学院の内田和典氏により発掘調査されているオシノヴァヤ・レーチカ 12 遺跡をはじめ，ゴンチャルカ 1 遺跡，オシノヴァヤ・レーチカ 10 遺跡，コンドン I 遺跡などの考古資料を見学した。今回の訪問により，次年度以降に推進する発掘調査あるいは展示をとおしたハバロフスク郷土誌博物館との研究交流について方向性が見いだされた。

その他，国際ネットワークの構築に関連して，2011 年 1 月 13 日～18 日に小野センター長によるドイツ，ライン州立博物館・テュービンゲン大学考古学研究所訪問，2011 年 1 月 27 日～31 日に同じく小野センター長によるアメリカ，ミズリー大学原子炉実験所訪問が実施された。

Ⅲ　社会貢献

1. 第 1 回黒耀石研究センター公開講座の開催

センター活動の一環として，明治大学リバティアカデミー講座により市民向けの講座を開講した。第 1 回公開講座は下記の内容で開催した。

【第 1 回明治大学黒耀石研究センター公開講座「黒曜石をめぐるヒトと資源利用」】

コーディネーター：小野　昭／研究・知財戦略機構特任教授・黒耀石研究センター長

講義概要　（2010 年後期リバティアカデミー・パンフレットより抜粋）

「長野県長和町に設置されている明治大学黒耀石研究センターは，2010 年度より研究・知財戦略機構の付属研究施設となりました。黒曜石は，石器時代の石器原料として，今から約 3 万年前から利用されています。黒耀石研究センターは，黒曜石をはじめとする様々な生活資源と人類の諸関係を古環境の移り変わりとともに解明する研究を行っています。本講座では，研究プロジェクトの多岐にわたる成果を分りやすく紹介していきます。2010 年度の第 1 回公開講座として『黒曜石をめぐるヒトと資源利用』を開講します。」

10月25日：「先史時代の岩石資源環境：日本列島とヨーロッパ」小野　昭（明治大学研究・知財戦略機構特任教授，黒耀石研究センター長）

11月 8 日：「日本列島最古のムラ跡と黒曜石資源の探索」島田和高（明治大学博物館学芸員，黒耀石研究センター員）

11月15日：「細石刃狩猟民と 1 万 8 千年前の黒曜石資

源利用」堤　隆（浅間縄文ミュージアム学芸員，黒耀石研究センター員）

11月22日：「黒曜石地下採掘活動の起源と縄文文化の形成過程」及川　穣（東京国立博物館アソシエイト・フェロー，黒耀石研究センター員）

11月29日：「黒曜石供給遺跡群の縄文文化と遺跡に魅せられた先学 ── 八ヶ岳西南麓を中心に ──」会田　進（研究・知財戦略機構客員教授，黒耀石研究副センター長）

Ⅳ　黒耀石研究センター

1. 主な施設利用

6 月 5 日：早稲田大学岳友会第 29 回山小舎カルチャー講演会（2 階会議室　30 名）

6 月15日：明治大学助手飯田茂雄氏，資料調査

7 月14日：雨天のためミュージアム見学団体（佐久東小学校）へ昼食会場提供（2 階会議室　73 名）

7 月26日：雨天のためミュージアム見学団体（駒場東邦高校）へ昼食会場提供（2 階会議室　75 名）

7 月29日：雨天のためミュージアム見学団体（新宿区淀橋第 4 小学校）へ昼食会場提供（2 階会議室　120 名）

9 月 8 日：慶応大学考古学民族学研究室学生・OB 7 名　展示見学

9 月16日：東海大学 4 年生小池拓也氏，資料見学

9 月28日：和田中学校の黒曜石学習に会場提供（2 階会議室「“黒耀石のふるさと創生” 地域の担い手づくり事業」和田中学生徒，教員，星糞峠第 1 号採掘址発掘参加者など合わせて 70 名利用）

10月18日：上小市町村教育委員会連絡協議会議秋季研修会の受付・開会式会場提供（2 階会議室　25 名）

2. 長和町協力事項

4 月～10月：星糞峠第 1 号採掘址の 3 D レーザー計測準備，立会い。

6 月 5 日：黒耀石体験ミュージアム友の会による黒曜石分布調査に同行（男女倉～高松沢の黒曜石採集）。

6 月30日：信州黒曜石フォーラム 2010 実行委員会出席（長野県埋蔵文化財センター）。

7 月27日：史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡調査団会議に出席（黒耀石研究センター）。

8 月20日～10月23日：「“黒耀石のふるさと創生” 地域の担い手づくり事業」に関連し，和田中学校授業を支援（黒曜石研究，発掘調査体験，第 6 回黒耀石ふるさと祭り参加について指導）。

7 月19日～ 9 月 4 日：「“黒耀石のふるさと創生” 地域の担い手づくり事業」に関連し，長門小学校の縄文土器太鼓演奏練習，第 6 回黒耀石のふるさと祭り出演を指導。

7 月20日～ 9 月23日：明治大学黒耀石研究センター・黒耀石体験ミュージアム合同企画展「縄文時代の黒耀石鉱山を考える」開催。（町と協働して，第 1 号採掘址の調査の経過と，ここまでの全容について展示を作成し，黒耀石研究センターアトリウム内に展示する，見学者受付も担当）。期間中来館者 993 名。

8 月24日～10月25日：「史跡星糞峠黒曜石原産地遺跡第 2 期保存整備事業」に関わる星糞峠第 1 号採掘址の発掘及び保存科学調査を支援（参加大学生の募集，発掘調査現地整備，土層セクション清掃，トレンチの発掘 土層セクション実測，合宿大学生の支援等の業務を長和町教育委員会と協働して行う）。

9 月 3 日：和田中学校「総合的な学習の日」取材依頼協力（生徒 4 名来所。施設の説明を行う）。

9 月 5 日：「第 6 回黒耀石ふるさと祭り」の開催を支援。

9 月 6 日：「黒曜石原産地保有市町村連絡協議会」および「星糞峠黒曜石原産地遺跡史跡整備委員会」に出席。

9 月13日：「長和町民大学　第 2 講」として，海外招聘研究者の講演会を実施。講演演目：ヴィオラ・ドボシ博士「ハンガリーの先史時代における黒曜石の利用」。ヤロスラフ・V・クズミン博士「ロシア極東における考古学的黒曜石の原産地とその開発」（受講者 100 人。会場：和田コミュニティーセンター）。

2 月28日：黒耀石展示体験館運営協議会に出席（和田コミュニティーセンター）。

3 月 4 日：鷹山遺跡群調査団会議に出席（黒耀石研究センター）。

3. 主催・共催・後援事業

8月1日：フォーラム「世界のなかの神子柴遺跡 ── 氷河時代狩猟民の世界 ──」を後援。会場：伊那市創造館

10月3日～4日：「信州黒曜石フォーラム2010・第20回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石器石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──」開催。黒耀石研究センターが事務局を務める信州黒曜石フォーラム実行委員会と野尻湖ナウマンゾウ博物館，長野県旧石器文化交流会による共同主催により，信濃町総合会館において研究交流会を開催した。また，フォーラム予稿集の編集など事務局業務を黒耀石研究センターが担当した。

10月7日～12月2日：明治大学黒耀石研究センター後援事業「シルク縄文織講座」開催。茅野市公民館の講座を後援，尖石縄文編布の会と協働して講師及びコーディネーターを勤める（会田）。受講者9人，全8回。会場：茅野市文化センター

11月14日：「原村の土器展」プレイベント「八ヶ岳の縄文ベルト地帯～阿久の鼓動～」後援。八ヶ岳美術館，八ヶ岳自然文化園の主催事業を後援。「縄文の祈り ── 縄文の音とおどりのコラボレーション」，シンポジウム「縄文世界とカジの木文化」の講師を務める（会田）。参加者35人。会場：八ヶ岳美術館，八ヶ岳自然文化園

12月16日～3月31日：「原村の土器展『阿久の鼓動』～八ヶ岳美術館30周年記念企画展～」（会期：2010年12月16日～2011年3月31日）を後援。展示パネル作成に協力（橋詰）。「やさしい縄文連続講座」を八ヶ岳美術館と協働で開催，コーディネーター及びメイン講師を努め，縄文土器拓本採取体験ワークショップを指導（会田）。全5講座，各25～30人参加。会場：八ヶ岳美術館。

4. 日 誌 抄

4月～2月：明治大学教育研究振興基金による備品・図書購入リスト作成，購入事務

新しい体制（明治大学研究・知財戦略機構付属研究施設）のもと，今後必要となる分析・記録・研究・教育普及器材のリスト化と購入事務を担当

・備品類：カメラ（デジタル，フィルム，中判カメラ，交換レンズ各種），遺物撮影台，金属顕微鏡，実体顕微鏡（モニターカメラ付），大判プリンター，スキャナー，デスクトップパソコン，ノートパソコン，超音波洗浄器，ハンディGPSほか

・図書類：外国文献138冊，国内文献284件（シリーズ本含む），和雑誌73冊，長野県周辺地形図207枚

4月～3月：購入，寄贈図書リスト作成

4月27日：長野県知事はじめ関係機関を表敬訪問，挨拶を行う

県知事（秘書課），県教育委員会事務局及び教育長（教育次長，文化財生涯学習課長，茅野市教育長，埋文センター所長，県立歴史館館長）

5月29日：黒耀石研究センター会議（明治大学駿河台校舎研究知財会議室）

6月29日：施設改修計画，今夏の発掘調査，ボーリング調査について長和町教育委員会と協議

7月14日：黒耀石研究センター運営委員会（明治大学駿河台校舎研究知財会議室）

9月～2月：センター改修工事事前準備

9月7日：本学施設課と改修工事について協議

10月14日：本学施設課及び業者が施設改修の調査，現地対応

2月1日～7日：蛍光X線分析装置への黒曜石原産地データ登録作業

11月～2月：センター改修工事事前準備

1月20日：本学施設課と改修工事について協議

2月14日：本学施設課と改修工事について協議

2月～3月：センター改修工事立会い

3月：蛍光X線分析装置への黒曜石原産地データ登録作業

3月23日：黒耀石研究センター運営委員会出席（明治大学駿河台校舎研究知財会議室）

5. ホームページの開設

2010年11月に黒耀石研究センターのホームページ（http://www.meiji.ac.jp/cols/）を開設した。センターの活動やイベント案内を掲載する。順次，英語版のページなど，内容を拡張する予定である。

V　研究業績一覧

1. 論文，研究ノート，短報その他

小野　昭　2010 「旧石器時代の動物骨・木の利用」『講座日本の考古学』1　旧石器時代（上）pp. 196–216. 青木書店

会田　進　2010 「八ヶ岳を中心とする中部山岳地の縄文時代中期文化の繁栄を探る ── 縄文時代植物質食料の研究 ──」『ミュージアム・アイズ』Vol. 54 pp. 8–9. 明治大学博物館

池谷信之　2010 「千葉県市原市西広貝塚出土の黒曜石の産地推定」『千葉縄文研究』4　pp. 1–19. 千葉縄文研究会

池谷信之　2010 「磐田市西貝塚の調査と黒曜石の産地推定」『静岡県考古学研究』41・42　pp. 25–34. 静岡県考古学会

池谷信之　2010 「土器の製作地から探る三宅島ココマ人の故地」『三宅島郷土資料館平成 22 年度秋期特別展図録』pp. 14–15. 三宅村教育委員会・島の考古学研究会

及川　穣・平田　健　2011 年 3 月（印刷中）「縄文時代早期撚糸文土器稲荷台式提唱資料のゆくえ ── 都指定文化財「稲荷台遺跡出土品」と南山大学博物館所蔵資料に着目して ──」『文化財の保護』43　東京都教育庁地域教育支援部管理課（頁未定）

及川　穣　2010 年 5 月「2009 年の研究動向　旧石器時代」『東京考古』28　pp. 110. 東京考古談話会

及川　穣　2011 年 1 月「学界動向〈各地における調査と研究〉4. 東京都」『石器文化研究』16　pp. 20–22. 石器文化研究会

及川　穣　2011 「鈴木次郎氏発表「槍先形尖頭器文化期のムラ ── 石囲い炉をもつブロックと槍先形尖頭器の生産 ──」へのコメント」『平成 21 年度考古学講座　記録集「かながわの旧石器時代のムラと住まいを探る」』pp. 41–43. 神奈川県考古学会

島田和高　2010 「環状ブロック群における遺跡の連関と移動の軌跡」『日本列島における酸素同位体ステージ 3 の古環境と現代人的行動の起源』pp. 24–25. 八ヶ岳旧石器研究グループ・浅間縄文ミュージアム・日本第四紀学会研究委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ 3 の環境変動と考古学」

島田和高　2010 「40 ka 以前の遺跡と石器群に関する諸問題」『旧石器時代研究の諸問題 ── 列島最古の旧石器を探る ──』日本旧石器学会第 8 回講演・研究発表・シンポジウム予稿集 pp. 41–44. 日本旧石器学会

島田和高　2010 「40,000 y BP を遡る遺跡は存在するのか？ ── 日本列島における中期旧石器研究の現状と課題」In *Journal of the Korean Palaeolithic Society* 21: pp. 71–82. The Korean Palaeolithic Society.

島田和高　2011 「仲田報告へのコメント ──『移行期説』と『立川ローム層 X 層石器群最古説』をこえて」『石器文化研究』16　pp. 100–102. 石器文化研究会

島田和高　2011（印刷中）「環状ブロック群の多様性と現代人の拡散」『資源環境と人類』1　明治大学黒耀石研究センター

高瀬克範　2010 「関東平野北部における弥生時代の剥片・スクレイパー類の使用痕分析」『論集忍路子』Ⅲ　pp. 59–74. 忍路子研究会

高瀬克範　2010 「続縄文文化と縄文文化」小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編『縄文時代の考古学 1』pp. 167–177. 同成社

Takase, K. 2010 Use-wear analysis of stone tools from Etorofu Island, the Southern Kuril Islands. In *Sundai Histroical Review*（*Sundai Shigaku*）140: pp. 113–134.

高瀬克範　2010 「レプリカ・セム法による先史時代の植物利用に関する基礎的研究 ── 秋田県域出土土器を対象として ──」『貝塚』66　pp. 1–18.

高瀬克範　2010 「『クリルの地』の考古学」『考古学ジャーナル』605　pp. 14–17.

高瀬克範　2010 「石器が語る『使用履歴』」『考古学の挑戦 ── 地中に問いかける歴史学 ──』阿部芳郎編 pp. 121–142. 岩波書店

高瀬克範　2011（印刷中）「東北北部の農耕文化をどうとらえるか」『弥生時代の考古学 1』設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編　同成社

高瀬克範　2011（印刷中）「平野と山地の農耕 ── 相模国の事例から ──」『交響する古代』東京堂

高瀬克範　2011（印刷中）「下北半島初期農耕社会における環境・資源利用に関する考古学的研究」『明治大学人文科学研究所紀要』68　明治大学人文科学研究所

高瀬克範　2011（印刷中）「大邱燕岩山・慶州煌城洞遺蹟出土石器の使用痕分析」『慶北大學校考古人類学科 30 周年記念論文集』慶北大學校考古人類学科

Takase, K. 2011（印刷中）Plant seeds recovered from potsherds of the final Jomon and Yayoi Periods: a case study in Iwate and Yamagata Prefectures, northeastern Japan. In *Meiji University Ancient Studies of Japan* 3.

Takase, K., Endo, E., Nasu, H. 2011（印刷中）Plant use on remote islands in the final Jomon and Yayoi Periods: an examination of seeds restored from potsherds in the Tawara site, Niijima Island, Japan. In *Bulletin of the Meiji University Museum* 16, Meiji University Museum.

Tsutsumi, T. 2010 Prehistoric procurement of obsidian from sources on Honshu Island, In Y. D. Kuzmin and M. D. Glascock（eds）. *Crossing the Straits: Prehistoric Obsidian Source Exploitation in the North Pacific Rim,* pp. 27–55. BAR International Series 2152. Archaeopress, Oxford.

堤　　隆　2010 「ある釣手土器のライフヒストリー」『坪井清足先生卒寿記念論文集　埋文行政と研究のはざまで』下巻 pp. 586–591. 坪井清足先生の卒寿をお祝いする会

堤　　隆　2011（印刷中）「細石刃狩猟民の黒曜石資源受給と石材・技術運用」『資源環境と人類』1　明治大学黒耀石研究センター

堤　　隆編　2010 『佐久考古通信 ── 特集：中南米の遺跡』105　p. 12. 佐久考古学会

堤　　隆編　2011 『佐久考古通信 ── 特集：佐久の土偶』106　p. 16. 佐久考古学会

堤　　隆編　2010 『シンポジウム日本列島における酸素同位体ステージ 3 の古環境と現代人的行動の起源』pp. 1–32. 八ヶ岳旧石器研究グループ・浅間縄文ミュージアム・日本第四紀学会研究委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ 3 の環境変動と考古学」

堤　　隆　2010 「新刊紹介：森先一貴著『旧石器社会の構造的変化と地域適応』」『考古学研究』57–3 p. 117. 考古学研究会

岩瀬　彬・橋詰　潤・出穂雅実　2010 「日本列島の後期更新世後半における陸生哺乳動物相研究の現状と課題」『論集忍路子』Ⅲ　pp. 89–121. 忍路子研究会

橋詰　潤・内田和典・I. Shevkomud・M. Gorshkov・S. Kositsena・E. Bochkaryova・小野　昭　2011（印刷中）「アムール下流域における土器出現期の研究(1)」『環境資源と人類』1　明治大学黒耀石研究センター

橋詰　潤・岩瀬　彬・小野　昭　2011（印刷中）「新潟県真人原遺跡 D 地点出土石器群の報告」『日本考古学』日本考古学協会

山科　哲　2010 「霧ヶ峰黒曜石原産地における黒曜石採掘と流通」『移動と流通の縄文社会史』阿部芳郎編 pp. 9–36. 雄山閣出版

2. 学協会発表（口頭発表・ポスター発表）

小野　昭

2010年 5 月27日：「中部ヨーロッパの更新世/完新世移行期におけるヒト―環境系の相関」日本地球惑星科学連合 2010 年度大会　幕張メッセ

2010年 6 月 5 日：「OIS3 研究委員会の 3 年間」シンポジウム日本列島における酸素同位体ステージ 3 の古環境と現代人的行動の起源（八ヶ岳旧石器研究グループ・浅間縄文ミュージアム・日本第四紀学会研究委員会）　浅間縄文ミュージアム

2010年 6 月19日：「旧石器時代の人類活動と自然環境」日本第四紀学会学会賞受賞者講演会　早稲田大学

2010年10月 3 日：「石材の流通 ── 見えないものをどう捉えるか ──」信州黒曜石フォーラム 2010・第 20 回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石器石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──（信州黒曜石フォーラム実行委員会・長野県旧石器文化研究交流会・野尻湖ナウマンゾウ博物館）　信濃町総合会館

2010年10月11日：Ono, A., Kosuge, M., Mitsuishi, N. Recent works of the JPRA: A database of Palaeolithic sites in the Japanese islands. Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends, The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, Gongju City, Korea.

及川　穣

2010年 5 月23日：「文化財の学校教育への活用にみる考古学的課題」（及川　穣・永瀬史人・種石　悠・伊藤敏行）日本考古学協会第 76 回総会・研究発表　国士舘大学

2010年 5 月23日：「茨城県ひたちなか市後野遺跡の研究⑵ ── B 地区細石器石器群の形成過程 ──」（髙橋瑠実・及川　穣・鴨志田篤二・川崎純徳・安蒜政雄）日本考古学協会第 76 回総会・研究発表　国士舘大学

2010年 6 月26・27日：「長野県鷹山遺跡群星糞峠黒曜石採掘址の研究 ── 地下採掘活動の起源を探るために ──」日本旧石器学会第 8 回講演・研究発表・シンポジウム　明治大学

2010年10月 2 日：「諏訪湖底曽根遺跡と黒曜石原産地をめぐる地域文化の形成過程」信州黒曜石フォーラム 2010・第 20 回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石器石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──（信州黒曜石フォーラム実行委員会・長野県旧石器文化研究交流会・野尻湖ナウマンゾウ博物館）　信濃町総合会館

2011年 1 月22日：「坂下報告『遺跡形成過程からみたナイフ形石器文化』へのコメント」石器文化研究会設立 25 周年記念シンポジウム「ナイフ形石器・ナイフ形石器文化とは何か ── 概念と実態を問い直す ──」　明治大学

島田和高

2010年 6 月 6 日：「環状ブロック群における遺跡の連関と移動の軌跡」シンポジウム日本列島における酸素同位体ステージ 3 の古環境と現代人的行動の起源（八ヶ岳旧石器研究グループ・浅間縄文ミュージアム・日本第四紀学会研究委員会）　浅間縄文ミュージアム

2010 年 6 月 25 日：「40 ka 以前の遺跡と石器群に関する諸問題」日本旧石器学会第 8 回シンポジウム旧石器時代研究の諸問題 ── 列島最古の旧石器を探る ──　明治大学

2010年 9 月22日：The dynamism of obsidian management and the emergence of modern human behavior in the early Upper Palaeolithic in Japan. International Symposium: The Initial Human Havitation of the Continental and the Insular Parts of The Northeast Asia. Yuzhno-Sakhalinsk, Russia.

2010年10月12日：“Circular settlements” in the early Upper Palaeolithic in Central Japan. Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends, The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, Gongju City, Korea.

2011年 1 月22日：「仲田報告へのコメント ──『移行期説』と『立川ローム X 層石器群最古説』をこえて ──」石器文化研究会設立 25 周年記念シンポジウム「ナイフ形石器・ナイフ形石器文化とは何か ── 概念と実態を問い直す ──」　明治大学

高瀬克範

2010年12月 8 日：Spatial diversity and temporal change of plant use in Sagami Province, classical Japan: an archaeological approach. Meiji University-USC Faculty and Graduate Student Research Exchange, University of Southern California, California, USA.

2011年 3 月19日：「韓国青銅器時代における異形石器の使用痕分析」石器使用痕研究会　明治大学

橋詰　潤

2010年 5 月23日：「縄文草創期前半から後半の石器群の変遷 ── 小瀬ヶ沢洞窟と室谷洞窟下層の比較から ──」第 76 回日本考古学協会総会　国士舘大学

2010年 6 月26・27日：「杉久保型ナイフ形石器の使用痕分析：上ノ原遺跡（第 5 次・県道地点）の資料を対象に」（岩瀬彬・橋詰潤）日本旧石器学会第 8 回講演・研究発表・シンポジウム　明治大学

2010年 8 月30日～ 9 月 4 日：AMS ^{14}C chronologies

of terrestrial mammalian megafauna in the late Late Pleistocene on the Japanese Archipelago (Iwase, A., Hashizume, J., Izuho, M., Takahashi, K., Sato, H.). The 5th International Conference on Mammoths and their Relatives. Mammoths and their Relatives from the Pliocene to Present-Day: Biotopes, Evolution and Human Impact, Le Puy-en-Velay, France.

2010年10月２日：「縄文草創期前半から後半にかけての石器石材利用について ── 野尻湖周辺及び新潟県域の事例から ──」信州黒曜石フォーラム 2010・第 20 回長野県旧石器文化研究交流会 ── 中部高地石器石材原産地と消費地をめぐる諸問題 ──（信州黒曜石フォーラム実行委員会・長野県旧石器文化研究交流会・野尻湖ナウマンゾウ博物館），長野県上水内郡信濃町総合会館

2010年10月10日～15日：Late Pleistocene megafaunal extinction on the Japanese Islands.（Sato, H., Izuho, M., Iwase, A. and Hashizume, J.）. Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends, The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, Gongju City, Korea.

2011年３月６日：「2010 年度オシノヴァヤレーチカ 12 遺跡の発掘調査成果」（橋詰　潤・I. Shevkomud・内田和典・M. Gorshkov・S. Kositsena・E. Bochkaryova・小野昭）第 12 回北アジア調査研究報告会　札幌学院大学

3. 研究出張

小野　昭

2010年10月16日：韓国ソウル大学放射性炭素年代測定 AMS 研究所（黒曜石の産地分析に関する研究交流を促進するため，韓国で Pixe（Proton induced X-ray emission）法で産地分析を進めている Prof. Kim Jong-chan に会う。杉原重夫，島田和高，小野　昭の３名で研究所を訪問。考古学から黒曜石の研究をすすめている Dr. Mi-yong Hong 他数名が同席。明治大学の黒曜石分析室装置など分析関係の説明を行う）

2010年11月５日～８日：ロシア共和国ハバロフスク市郷土誌博物館（黒曜石研究ネットワーク作りに関する打ち合わせをおこない，オシポフカ文化関連の資料を見学調査。会田　進，橋詰　潤，小野　昭の３名が参加。Dr. Igor Schefkomud が対応）

2011年１月13日～18日：ドイツ，ライン州立博物館，テュービンゲン大学考古学研究所（石器石材の比較研究のネットワーク作りならびにネアンデルタール人発見の標式地の見学と資料の調査。ライン州立博物館の対応は Dr. Ralf W. Schmitz，テュービンゲン大学考古学研究所における対応は Prof. Harald Floss）

2011年１月27日～31日：アメリカ，ミズリー大学原子炉実験所（黒曜石の分析の高精度化と試料の共有化ならびにワークシップに関する打ち合わせ。対応は Prof. Michael, D. Glascock, Dr. Jeff Ferguson.）

池谷信之

2010年５月29・30日：愛知県新城市鳳来寺山周辺（鳳来寺山ピッチストーン産地の産状調査とサンプル採取，豊川河川砂粒の採取）

2010年７月23・24日：長野県茅野市および諏訪湖周辺（茅野市棚畑遺跡出土縄文土器産地推定用サンプルの借用と諏訪湖周辺の河川砂粒の採取）

2010年10月21日：牧ノ原市・御前崎市（土器産地推定の基礎試料となる古窯址出土資料および在地弥生土器・土師器の借用）

2010年10月22日：愛知県埋蔵文化財センター（土器産地推定の基礎試料となる古窯址出土資料および在地弥生土器・土師器の借用）

2010年11月26・27日：千葉県市原市ほか（土器産地推定の基礎試料となる古窯址出土資料および在地弥生土器・土師器の借用）

2010年12月10・11日：千葉県香取市ほか（土器産地推定の基礎試料となる古窯址出土資料および在地弥生土器・土師器の借用）

2011年１月7・8日：三重県埋蔵文化財センターおよび三重県中北部河川（土器産地推定の基礎試料となる古窯址出土資料および在地弥生土器・土師器の借用と三重県中北部河川砂粒の採取）

及川　穣

2010年12月15日：津南町農と縄文の体験実習館なじょ

もん（新潟県津南町下モ原遺跡出土石器，貝坂遺跡群出土石器，居尻 A 遺跡出土石器の見学調査）

2011年 2 月27日～ 3 月 6 日：英国大英博物館，ケンブリッジ大学考古学・人類学博物館，オックスフォード大学アシュモレアン博物館，セインズベリー日本藝術研究所（スター・カー遺跡出土資料，黒曜石製遺物等の見学調査，世界遺産ストーンヘンジ，各博物館の施設・展示普及活動を視察）

島田和高

2011年 1 月28日：埼玉県埋蔵文化財調査事業団（清河寺前原遺跡出土石器を観察・調査）

2011年 2 月17・18日：北海道埋蔵文化財センター（共栄 1 遺跡出土石器・顔料関連資料・石製品を観察・調査）

2011年 2 月24・25日：前橋市教育委員会文化財保護課，群馬県埋蔵文化財調査事業団（内堀遺跡ほか，群馬県内の環状ブロック群出土石器を観察・調査）

2011年 3 月 3 日：沼津市文化財センター（研究発表打合せ，BBVII～BBIV 層出土石器の観察）

2011年 3 月17日～20日：人吉市教育委員会ほか（血気ヶ峯遺跡，大野遺跡群出土石器ほかを観察・調査）

高瀬克範

2010年 6 月 3・4 日：岩手県立博物館，滝沢村埋蔵文化財センター（岩手県の弥生土器に認められる植物種子圧痕の調査）

2010年 6 月 8・9 日：山形県埋蔵文化財センター（山形県の弥生土器に認められる植物種子圧痕の調査）

2010年 6 月29・30日：飯田市教育委員会（長野県飯田市内の縄文晩期土器に認められる植物種子圧痕の調査）

2010 年 7 月 20 日～24 日：北海道大学埋蔵文化財調査室（札幌市内から出土した続縄文時代の黒曜石製石器の使用痕分析）

2010年 8 月 7 日～ 8 月26日：ロシア連邦カムチャツカ地方ブィストリンスキー地区（カムチャツカ半島中央部の旧石器・新石器時代遺跡の分布調査）

2010年 9 月 6 日～ 9 月14日：青森県むつ市江豚沢遺跡（下北半島における弥生時代前期並行期の集落遺跡の発掘調査）

2010年 9 月29日～10月 1 日：札幌市埋蔵文化財センター（札幌市内の縄文晩期～続縄文土器に認められる植物種子圧痕の調査）

2011年 3 月 7 日～ 3 月13日：ロシア科学アカデミー極東支部東北学際科学研究所（ロシア連邦マガダン市）（オホーツク海北岸における先史時代の年代・生業調査）

堤　　隆

2011年10月11日～14日：沖縄県石垣島市白保竿根田原洞窟発掘現場および周辺（2 万年前の旧石器人骨の出土地である白保竿根田原洞窟発掘現場を視察し，遺跡周辺の環境調査と石垣島市博物館での資料実見を行う）

橋詰　潤

2010年11月20日：長岡市立科学博物館（卯ノ木遺跡出土資料資料調査）

2011年 1 月12日～14日：北海道大学，帯広市埋蔵文化財センター（ロシア調査打ち合わせ，ロシアにおける黒曜石研究の現状把握，帯広市大正 3 遺跡資料調査）

2011年 3 月 5・6 日：札幌学院大学（北アジア調査調査研究報告会にてオシノヴァヤレーチカ 12 遺跡調査成果の報告。意見交換）

4. 講演会，学習講座，ワークショップ，フォーラム等

小野　昭

2010年12月 6 日：講師,「ネアンデルタール人再発見の物語」古代を学ぶ会　会場：東京都中野区勤労福祉会館

会田　進

2010年 7 月21日～ 3 月12日：講師・コーディネーター，講座「星ふるさとから ── 縄文文化発信事業」 会場：八ヶ岳自然文化園

2010年10月 7 日～12月 2 日：講師・コーディネーター（会田進・尖石縄文編布の会），体験講座「シルク縄文織講座」 会場：茅野市公民館

2010年11月14日：パネラー（会田進ほか），シンポジウム『原村の土器展プレイベント「八ヶ岳の縄文ベルト地帯」阿久の鼓動』 会場：八ヶ岳美術館，八ヶ岳自然

文化園

2010年１月８日・２月19日・３月12日：講師，「阿久の鼓動 『原村の土器展』やさしい縄文連続講座」 会場：八ヶ岳美術館

池谷信之

2010年11月6日：講師，「土器の製作地から探る三宅島ココマ人の故地」三宅島郷土資料館平成22年度秋期特別展講演会　会場：三宅島郷土資料館

島田和高

2010年11月12・19・26日，12月３・10日：講師，「現代人はどこから来たか？」明治大学博物館入門講座　会場：明治大学博物館

2010年12月４日：講師，「田名向原遺跡住居状遺構の成り立ち」田名向原遺跡旧石器時代学習館講演会　会場：田名向原遺跡旧石器時代学習館

高瀬克範

2010年10月９日：講師，「アジアから日本文化の源流を探る　東アジアのなかの縄文・弥生文化 ── 原日本の形成 ──」かわさき市民アカデミー　会場：川崎市生涯学習プラザ

堤　　隆

2010年７月30日：講師，「石槍をもったハンターと土器の起源 ── 上伊那郡神子柴遺跡の石器と最古の土器群の謎」ミュージアムカレッジ　会場：信州豊南短期大学

2010年11月13日：講師，講演「石槍・石斧・土器 ── 謎めいた縄文時代の起源」 会場：十日町市博物館

2010年６月５・６日：オーガナイザー，シンポジウム「日本列島における酸素同位体ステージ３の古環境と現代人的行動の起源」 会場：浅間縄文ミュージアム

2010年８月１日：オーガナイザー・パネリスト，フォーラム「世界の中の神子柴遺跡 ── 氷河時代狩猟民の世界 ──」 会場：伊那市創造館

2010年８月１日：講師，「旧石器作りと調理に挑戦」会場：伊那市創造館

山科　哲

2011年１月30日：講師（山科哲ほか），「肉食を探る」平成22年度尖石縄文考古館縄文ゼミナール第４回　会場：尖石縄文考古館